

新宿駅東口地区歩行者環境改善社会実験（東京都新宿区）

1. 実験実施の背景

- ・日常的に路上荷さばきが頻繁に行われており、歩行者環境が阻害
- ・違法路上駐車やパーキングメーターで制限時間を超える長時間駐車が発生
- ・駐車場所を探すうろつき車両も頻発しており、交通混雑や歩行者の安全性が低下

2. 検証項目

- ① 路上駐車減少の効果
- ② 将来に向けた導入効果
- ③ 荷さばき作業の効率化
- ④ 宅配便物流の効率化
- ⑤ パーキングメーター利用率の向上
- ⑥ パーキングメーターでの長時間駐車台数の減少
- ⑦ 代替手段利用者の傾向
- ⑧ 路上駐車減少の効果

3. 今回の実験内容及び結果

【実験地域】 新宿駅周辺

【実験内容】

- ① 荷さばき集約化実験
 - ・地区内における多頻度小口の白ナンバー物流の荷物の集約化
- ② 宅配便物流の集約化実験
 - ・地区内における宅配便の配達および集荷の荷物の集約化
- ③ 駐車場所・駐車時間の適正化実験
 - ・街渠部分にカラーコーン及び駐車抑制サインを配置し、社会実験の実施を明示
 - ・適正な場所での駐車と、パーキングメーターの利用時間の適正化の周知・啓発

【実施期間】 平成29年11月8日(火)～平成29年11月9日(水)

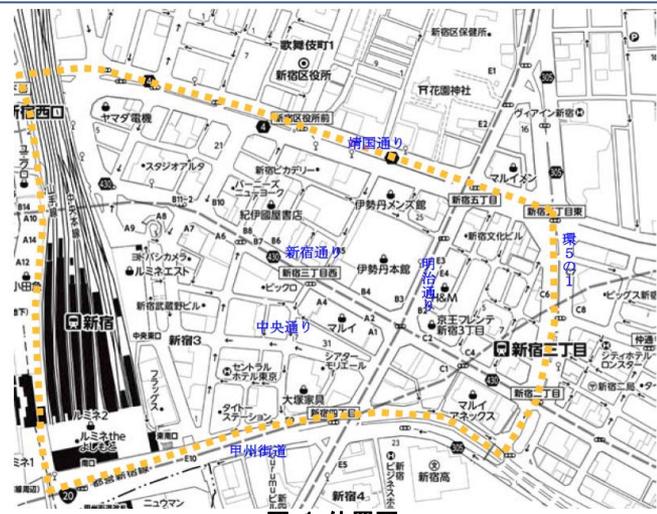


図-1 位置図



図-2 荷さばき駐車状況



図-3 違法駐車状況



図-4 長時間駐車状況

4. 検証結果

① 路上駐車減少の効果

- ・ 全体の荷さばきの違法路上駐車に対して **3.6%(85台/2,331台)の減少**

② 将来に向けた導入効果

- ・ パーキングメーター不利用の荷さばき路上駐車**の58%(1,360台/2,331台)が減少**

③ 荷さばき作業の効率化

- ・ 走行時間の平均は平常時**3.9分**、実験時**1.5分**であり、**62%の時間短縮が図られ、目標値20%を上回った**

④ 宅配便物流の効率化

- ・ 実験によって減少した宅配便車両は8台であり、平常時の宅配便車両の実験地区全体の路上駐車台数245台に対しては**3.3%の減少率**

⑤ パーキングメーター利用率の向上

- ・ 中央通りでは、平常時のパーキングメーターの回転率は12.0であったが、実験時の回転率は17.9となり効率的利用が促進

⑥ パーキングメーターでの長時間駐車台数の減少

- ・ 中央通りでは、パーキングメーターの平均利用時間が**47.9分から31.8分に短縮**

⑦ 代替手段利用者の傾向

- ・ 新宿サブナード地公共下駐車場は高さ制限が2.1mと低く、現状のまま代替手段として使用することは困難

⑧ 路上駐車減少の効果

- ・ **69%の歩行者から「歩きやすい」「やや歩きやすい」と回答**

表-1 社会実験による路上駐車台数

平常時(10/26)と実験時(11/9)の比較	路上駐車台数の減少台数(違法路上駐車)
荷さばき集約化実験	20台減少
宅配便物流の集約化実験	24台減少 (パーキングメーター利用へ転換)
駐車場所・駐車時間の適正化実験	41台減少 (パーキングメーター利用へ転換)
合計	85台減少

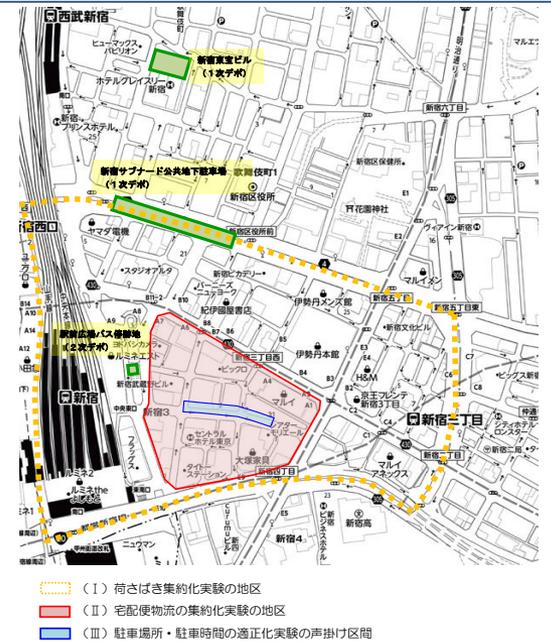


図-5 実験概要図

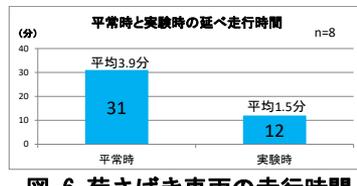


図-6 荷さばき車両の走行時間

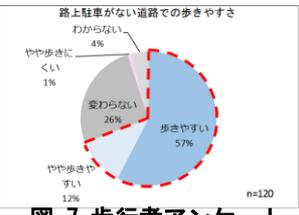


図-7 歩行者アンケート



図-8 路上駐車減少

5. 実験後の展開、明らかになった課題等

① 荷さばき集約化実験

- ・ 本格実施に向けた1次デポ、2次デポの確保
- ・ 参加店舗数・参加納入業者数の確保
- ・ 取扱い荷物の範囲(品目)の制約の拡大
- ・ 荷さばき集約化のシステムの充実化

② 宅配便物流の集約化実験

- ・ 本格実施に向けた1次デポ、2次デポの確保
- ・ 参加宅配業者数の拡大

③ 駐車場所・駐車時間の適正化実験

- ・ 地元荷さばきルールの検討
- ・ 荷さばき集約化によるバックアップ